

# 第25回 ことう地域チームケア研究会



くすのきセンター

1階 研修室

平成29年3月9日(木)

# 交流会

- 講演を聞いた感想・もっと知りたいこと
  - 自分の職種では何ができるか など
- ❁ グループ発表後は、自己紹介タイムです。

- 家族が不安なく看取りの時期を過ごせるようになったのは、専門職と家族が、状態の変化を共有できる、相談できるようになったからだと思う。
- 口腔状態については、むせが始まった時点で歯科に相談してもらえると、食事形態を変えずに対応できるかもしれないと思った。医師やケアマネジャーから、歯科につなげてもらえるとよいのではないかと思った。
- 今は多くの専門職種が在宅に関わりチームケアができるようになってきていると感じる。
- 「近くにいてくれる医師の存在」「外の空気を吸うこと(仕事を続けながら友達が気分転換をさせてくれた)」で介護者は在宅で介護を続けることができた。

- 在宅介護で家族の一番の心配は、体調の変化について、家族では判断できないこと。夜間でも連絡、相談が出来たので安心できた。
- 薬剤師がチームに加わったケースを初めて聞くことが出来た。
- 家族が穏やかに看取れたのは、このチームケアで安心して過ごせていたからではないか。
- 学校教育の中で、在宅でのケア、認知症のことなど伝えていけるとよいと思った。
- チームケアは、中心になって情報を伝える人がいると感じた。
- 専門職の人材確保は課題。歯科や歯科衛生士の養成、また介護のスタッフも養成していかないといけない(歯科)。

- 事業所のスタッフも家族と同じ思いで支えてこられたのではないかと思った。デイサービスでは医療的対応が増えてくると利用が困難になる状況もある。出来る限り支えられるようにしていけるとよいと思った(介護職)。
- 今回の事例では、ケアマネから各サービス事業所への情報伝達がうまくできて状態管理も上手く出来たのではないか。
- 在宅介護、看取りが良かったのかどうか、専門職のかかわりについて振り返り、また認め合うことができるとういと思った。(保健師)。

- 医療依存度が高く、点滴、酸素、吸引等するも、どこまで継続したらいいのかと悩むこともある。
- 家族の思いを上手く聞き出し共有することは大事だと思った。
- 家族の思い、葛藤を聞くことができ、今後の支援につなげていきたい。
- 家族からの情報が非常に有効だった(介護職)。
- 家族の思いと本人の体調を見ながら、歩行支援をどうしていくか。今回のケースは良いかかわりが出来たと思う(看護師)。
- ケアの方法については、医師の判断や理学療法士も加わり、判断することもある(医師)。
- 主治医のアドバイス、指示がタイムリーに行われ、うまく支援できたのではないか。
- 医師の往診はとても安心だったと思う(介護職)。

- これから独居世帯が増え、自宅での看取りはうまくできるのだろうか(ケアマネジャー)。
- 今回のケースは良いケース、キーパーソンが決まっていた。長女さんを中心としてチームケアが行われていたという感想。しかし、そうでないケースが多い。家族の協力が得られない場合どうしたらいいのだろうか。
- ケアマネジャーや訪問看護を中心に、家族とうまく話をまとめ、方向性を定め、そのほかの専門職の介入を進めていけるとよいのではなか。
- 医師の言葉をかみくだいて家族と話をしているのは訪問看護の役割ではないかと思った。

- 情報を上手く得る意識を住民に持っていただく、また行政としては啓発を進めることが必要ではないかと感じた。
- 家族の協力が得られない場合でも在宅支援、看取りができるように啓発していかないといけないのではないかと思った。
- 訪問入浴は緊急時の連絡先が明確であったので、安心して関わられた。
- かかりつけ医の往診ができる環境づくりが必要である。



# 《全体での意見交換》

- 今回の事例は特別な事例？このような事例は少ないかもしれない。しかし専門職がもう少しずつ力を出し合えたら、そのほかの事例でも上手くできるのではないのでしょうか。
- 今回、家族の協力を得てこのような事例報告ができた。
- このように事例をどんどん発信していかないといけない。湖東地域はチームケアは進んできたと自信を持って。
- 湖東地域は専門職がまとまっていると思う。住民の皆さまに返していければいいと思う。
- 民生委員の会議で、花かたばみの看取り講座をしてもらった。行政として、このように頑張っている専門職や家族のこと、しくみを住民に知ってもらえるようにしていきたい。啓発を進めていくことが行政の役割だと感じた。

# 病院と診療所の連携、在宅療養支援について

(医師より)

- 主治医が不在の間、病院(在宅支援室)から支援を行った。その逆で診療所の先生に往診を頼むこともある。
- 在宅支援に関わるとき、長い期間、24時間ずっと見てきている家族に、医療者がどうかかわっていくかを考えている。
- 看取りの数ではなく、質が大事だと思う。どのような看取りができているのか。専門職として考えながら関わっていくことが必要ではないかと思う。